

(別紙 4(2))
目標達成計画



(介護予防) 認知症対応型共同生活介護
事業所 グループホーム みどりの郷ほんじょう
作成日：平成 30 年 5 月 2 日

優先順位	※項目番号	現状における課題、解決すべき問題点	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		今期、インフルエンザやノロウィルス等感染性疾患罹患者が出なかったことは成果であるが、感染症に対する職員の個人意識や知識習熟度等に差があり目標まで及んでいない。	全職員が入居者に対し、「安心安全の提供を第一義とする」とした意識と危機感の共有を図る。「もう一人の家族」という意識と支援に対する責任を自覚し、技術の習得、毅然とした介護姿勢、職業人たる規範に基づく援助に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の日々の様子、業務日誌・日報等による周知既往症の把握と理解など、職員間に意識や理解に差が生じることのないよう業務態勢を整備する 研修、学習会、講演会等に積極的に参加することで不断に学習を重ね意識や技術の向上を図る 適宜事例検討を行うことで複数の実態症例に接し、対応の在り方を習得できるよう図る 医療連携に対応する専任看護師による実態に即応した院内学習会を定期に開き、一定水準の習熟程度に導く 学習の過程でより良い処遇の在り方を模索し、職員個々人の質の向上を図る 	12 か月～ 継続
2		職員間のコミュニケーション不足が未だ顕在しており、職業人としての意識低下がみられ意欲の向上につながっていない面がある。	常にカンファレンス等において意識共有を図り、入居者に対する一致した処遇・支援を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> テーマを設定して定期的なカンファレンスを行うことで、ホームが目標する運営方針の再認識と意識づけを図っていく 院内、院外ともに研修・勉強会等の機会を作り、規則、ルールに準拠した社会人たる規範意識の醸成と職員のレベルアップを図る 	12 か月～ 継続
3		入居経歴が長くなるほど、徐々に ADL の低下があるほど、入居者は多くの時間をホーム内共有ホールで漫然として過ごし、不活発な生活となる傾向が続いている。	<ul style="list-style-type: none"> 日常の暮らしに不穏や動揺を誘発しない程度での緩やかな変化を提供していく 外出の機会やイベント、レクリエーション等の能動的な場面の提供に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 施設周辺的环境を活用し、見守り等安全に十分に配慮しながら、天気や気温の穏やかな日中は園庭等での散歩や気分のリフレッシュを心掛ける。 レクリエーションへの参加意欲を刺激し自然に笑いの輪に引き込み、活力豊かな生活リハビリに資するような支援を心掛ける。 	12 か月～ 継続

1 目標達成計画は、現状認識の共有と課題や問題点の把握、事業所のステップアップへ向けての取り組む目標の設定です。たくさん掲げることで焦点がぼやけないようスタッフ相互で話し合い、直近に優先して取り組むべき具体的な計画を記入してください。